

§ 1 . 一般事項

1 - 1 本標準図は、壁式鉄筋コンクリート構造物に適用する。設計図に記載なき図面および事項は本標準図を適用する。設計図に記載された図面および事項は、本標準図を適用する。

1 - 2 表示記号

鉄筋記号	●	×	φ	●	○	⊗	⊙
異形鉄筋	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29

§ 2 . 鉄筋加工・かぶり

2 - 1 鉄筋端部の標準フック形状

折曲げ角度	180°	135°	90°
図			
鉄筋の余長	4 d 以上	6 d 以上	8 d 以上
曲げ内の径 R は D 19 - D 25 は 4 d 以上、D 16 以下は 3 d 以上。幅止筋は、4 d 以上とする。			

- (注) 1) d は、異形鉄筋と呼び名に用いた数値 (mm) とする。  
 2) 折り曲げ角度 90° は、スラブ筋・壁筋の末端部またはスラブと同時に打ち込む T 形および L 形はりに用いる U 字形あばら筋と対のキャップタイのみにもちいる。(右図参照)  
 3) 方持ちスラブの上端の先端、壁の自由端に用いる先端の余長は、4 d 以上でよい。  
 4) S D 2 9 5 および S D 3 4 5 の鉄筋でかつ呼び名が D 1 3 以下であって、折り曲げに際して割れ、ひび割れ等が生じないことが確かめられた場合でかつ、折り曲げ部内側に直交方向に D 1 3 以上の補強筋を配する場合に折り曲げ内法直径を 2 d とし、てもよい。

2 - 2 鉄筋の折り曲げの形状

鉄筋の使用箇所による呼び径	鉄筋の径による区分	鉄筋の種類	鉄筋の折り曲げ内の寸法 (D)
壁梁の縦筋・横筋・あばら筋	D 16 以下	SD 295 SD R 295 SD 345	3 d 以上
	D 19 以下	SD 295 SD R 295 SD 345	4 d 以上
上記以外の鉄筋	D 16 以下	SD 295 SD R 295 SD 345 SD R 345	4 d 以上
	D 19 - 25	SD 295 SD R 295 SD 345 SD R 345	6 d 以上

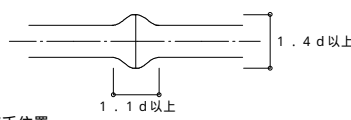
2 - 3 鉄筋の定着および重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc (N/mm <sup>2</sup> )	重ね継手長さ (L)		定着の長さ	
		一般 (L1)	一般 (L2)	下端筋 (L3) (L3h)	小梁など (床・屋根スラブなど)
SD 295	18	45d (35d)	40d (20d)	20d (10d)	10d かつ 150mm
	21	40d (30d)	35d (20d)		
	24	35d (25d)	35d (15d)		
	27	35d (25d)	30d (15d)		
	30、33、36	35d (25d)	30d (15d)		
SD 345	18	50d (35d)	40d (20d)	20d (10d)	10d かつ 150mm
	21	45d (30d)	40d (20d)		
	24	40d (30d)	40d (20d)		
	27	40d (30d)	35d (20d)		
	30	35d (25d)	35d (20d)		
	33	35d (25d)	35d (15d)		
	36	35d (25d)	30d (15d)		

- (注) 1) ( ) はフック付きを示す。  
 2) 径の異なる鉄筋の重ね継手は、細い方の d を用いる。  
 3) 末端のフックは、定着および継手の長さには含まれない。  
 4) 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする。  
 5) D 2 2 以上の異形鉄筋には、原則として重ね継手は用いない。  
 6) L 3 : 基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁を除く。  
 7) 軽量コンクリートの場合は、設計図書による。

2 - 4 (a) ガス圧接の形状

圧接端面はグラインダーがけを完全に行い、平滑で酸化膜や錆などがなく軸線に直角な面に仕上げる。



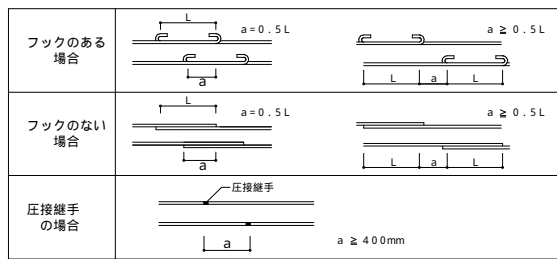
(b) ガス圧接継手位置

- 1) ガス圧接位置は設計図および施工図による。  
 2) ガス圧接位置は原則として鉄筋応力の大きい所を避け、かつ同一断面に集中させない。  
 3) 圧接箇所は鉄筋の直線部分とし、曲げ加工部、およびその近くは避ける。また、圧接箇所では、曲げ加工をしない。

(c) 種類、銘柄、径の異なる鉄筋の圧接

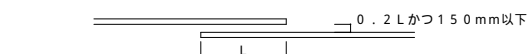
- 1) 種類の異なる鉄筋相互には圧接継手を設けない。  
 2) 同一種類の鉄筋であれば、銘柄の異なる鉄筋相互を圧接継手してよい。ただし、圧接性に差があるので、あらかじめ調査してから圧接の可否を決めることが望ましい。  
 3) 径または呼び名の差が 5 mm を超える場合には原則として圧接継手をしない。

2 - 5 隣合う継手位置

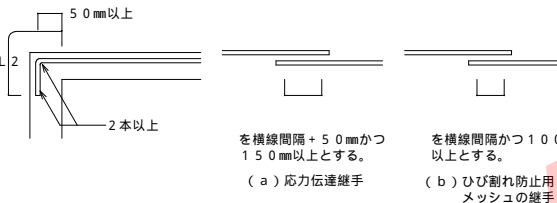


- (注) 1) 継手は 1ヶ所に集中することなく、相互にずらして設けることを原則とする。  
 (注) 2) 床版および壁の場合を除く。

重ね継手の相互の鉄筋は、密着させる事を原則とするが、耐力壁の縦筋やスラブ筋などの場合は、下記に示すあき重ね継手でもよい。



2 - 6 溶接金網の継手および定着



溶接金網の定着 溶接金網の重ね継手

構造部分の種別	仕様	R 4 年度版		採用
		仕様	仕様	
土に接しない部分	床版・屋根床版	仕上がりあり	20	採用
		仕上がりなし	30	
	耐力壁以外の壁	仕上がりあり	20	
		仕上がりなし	30	
土に接する部分	柱・梁	仕上がりあり	30	採用
		仕上がりなし	30	
	耐力壁	仕上がりあり	30	
		仕上がりなし	40	
欄干・耐圧床版		40		
柱・梁・床版・耐力壁		40*		
布基礎立上り部		60*		
基礎・欄干・壁・耐圧床版		60*		

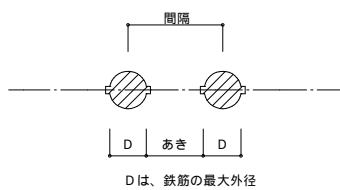
(注) 印は、普通コンクリートに適用する。

- (1) 「仕上がりあり」とは、モルタル塗りなどのあるものとし、吹付け塗装などの鉄筋の耐久上有効でない仕上げのものを除く。  
 (2) 床版、梁、基礎および欄干で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨てコンクリートの厚さは含まない。  
 (3) 杭基礎の場合のかぶり厚さ、は杭先端からとする。  
 (4) 塩害の恐れのある部分等、耐久性上不利な箇所は特記による。

2 - 8 鉄筋のあき

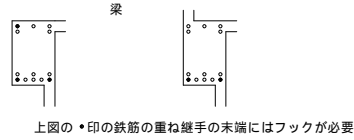
鉄筋相互のあきは、下記の (1) - (3) のうち最大のもの以上とする。ただし、特殊な鉄筋継手の場合は、特記による。

- (1) 粗骨材の最大寸法 1. 25 倍  
 (2) 2. 5 mm  
 (3) 鉄筋径 (呼び名に用いた数値 d) の 1. 5 倍



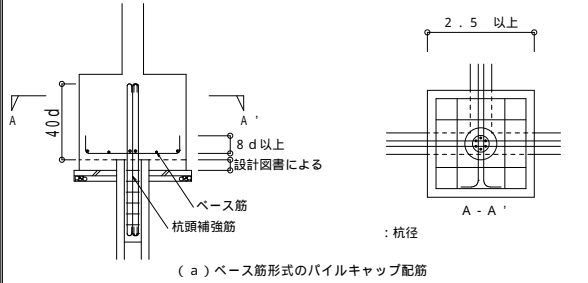
2 - 9 鉄筋のフック

- 下記の (1) - (6) に示す鉄筋の末端部には、フックを付ける。  
 (1) 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅および下端の両端にある場合 (ただし、基礎梁を除く)  
 (2) 煙突の鉄筋 (壁の一部となる場合を含む)  
 (3) 杭基礎のベース筋  
 (4) あばら筋、帯筋および巾止め筋  
 (5) 方持ちスラブの上端筋の先端  
 (6) その他、本配筋標準図に記載する箇所

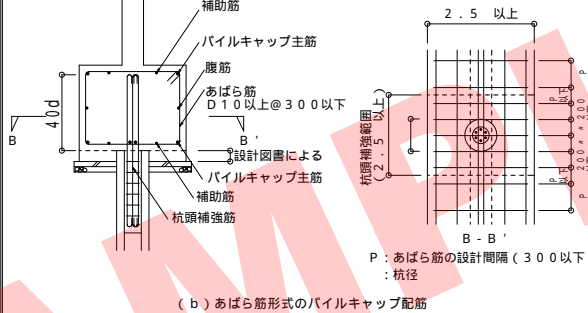


§ 3 . 基礎工事

3 - 1 杭基礎の場合

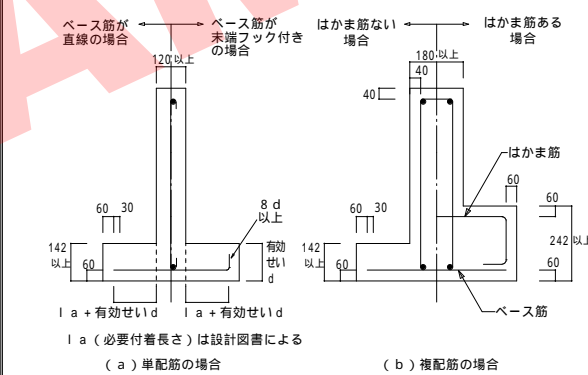


(a) ベース筋形式のパイルキャップ配筋



(b) あばら筋形式のパイルキャップ配筋

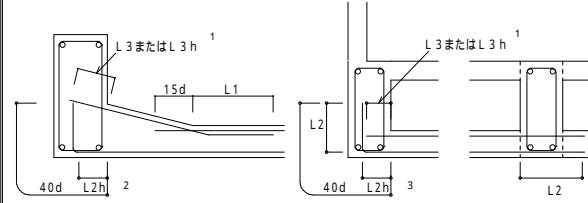
3 - 2 布基礎の場合



(a) 単配筋の場合

(b) 複配筋の場合

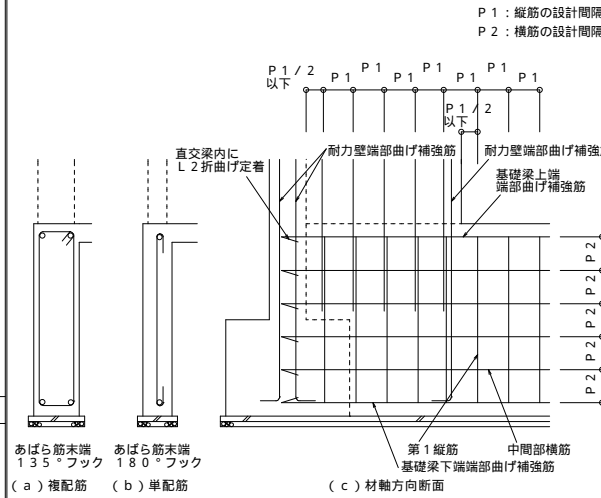
3 - 3 べた基礎の場合



べた基礎のハンチ付耐圧スラブの配筋

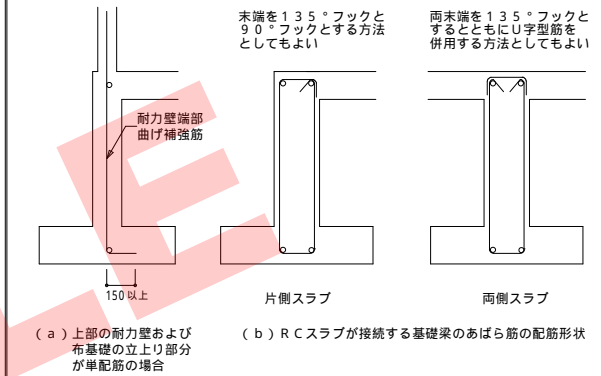
- 1 上端筋の端部に引張が生じる場合は、L 2 または L 2 h 以上とする。  
 2 下端筋の定着は定着起点より直線部が L 2 h 未満の場合は、4 0 d 以上確保する。  
 3 下端筋の定着は定着起点より直線部が L 2 h 未満の場合は、4 0 d 以上、かつ立上り部長さ L 2 を確保する。

3 - 4 基礎梁



(a) 複配筋 (b) 単配筋 (c) 材軸方向断面

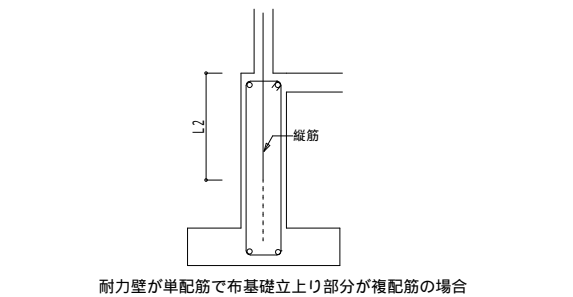
3 - 5 布基礎の曲げ補強筋立ち上がり部分の配筋



(a) 上部の耐力壁および布基礎の立上り部分が単配筋の場合

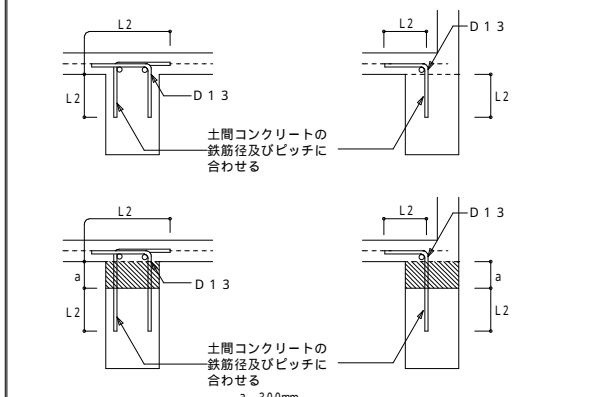
(b) R C スラブが接続する基礎梁のあばら筋の配筋形状

布基礎の立上り部分の上部の耐力壁の縦筋および曲げ補強筋は、原則として、基礎のベース筋位置まで延ばす。ただし、上部の耐力壁が単配筋で布基礎の立上り部分が複配筋の場合または、布基礎の立上り部でコンクリートを打ち継ぐ場合の、上部の耐力壁の縦筋は、基礎梁上端から L 2 以上定着するかコンクリートの打ち継ぐ面 (基礎梁上端から L 2 以上の位置とする) まで延ばしてもよい。



耐力壁が単配筋で布基礎立上り部分が複配筋の場合

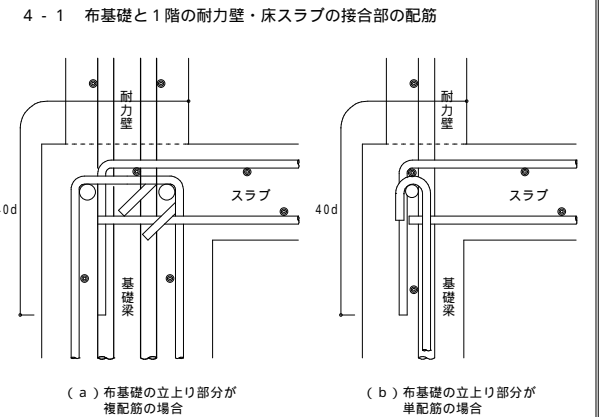
3 - 6 土間コンクリートの補強筋



土間コンクリートの鉄筋径及びピッチに合わせる

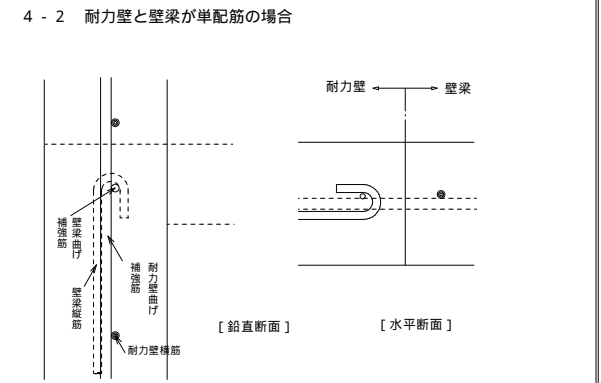
土間コンクリートの鉄筋径及びピッチに合わせる

§ 4 . 接合部の仕様

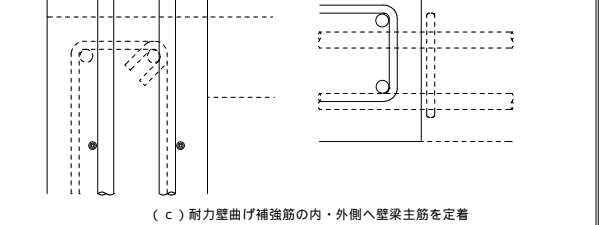
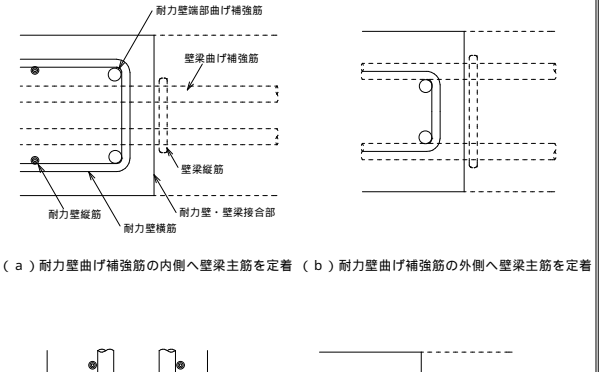
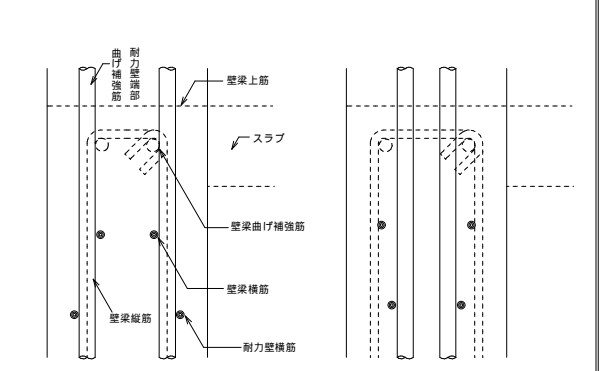


(a) 布基礎の立上り部分が複配筋の場合

(b) 布基礎の立上り部分が単配筋の場合



4 - 2 耐力壁と壁梁が単配筋の場合



(a) 耐力壁曲げ補強筋の内側へ壁梁主筋を定着 (b) 耐力壁曲げ補強筋の外側へ壁梁主筋を定着